

トークと映像と舞踊劇の宴

精霊たちの踊り

私の畑は、精霊たちの生気を大気中から吸収していた・・・。

ヘンリー・ソロー 『ウォールデン』

主宰

今福 龍太 (文化人類学者)

ゲスト

第I部トーク：川瀬 慈 (映像人類学者)

第II部舞踊劇：高橋 由佳 (ダンサー)

2019年

7月11日 [木] 17:00～

会場：徳島県 祖谷 なこち

ヘンリー・ソロー生誕日前夜

写真：宮脇 慎太郎

もっとも深く本質的な意味での「自由」と「野生」を、日々の生活のなかに実現しようとした19世紀アメリカの思想家ヘンリー・ソロー。彼の素朴で高潔な精神を現代に引き継ごうという思いを胸に抱いた人々が祖谷に集い、ソローの誕生日を祝いながら語り合い、即興的に表現し合う「野生の学舎〈ソローヴィアン〉」も、今年で4年目を迎えました。〈ソローヴィアン〉とは、ソロー風に生きることを指す合言葉です。

今年は、「精霊たちの踊り」と題し、私たちの世界の真理や美を見えないところから指し示してくれる「精霊」(スピリット)たちの気配を感じながら、語りと映像と踊りと劇的なパフォーマンスを介して、皆さんとご一緒に、靈感に満ちあふれた稀有なる一夜を過ごせればと思います。

ソローはウォールデンの静謐な森でひとり暮らしながら、こう書いていました。

私はフクロウの憂いに満ちた応答が森をふるわせるのを聴くのが好きだ。それはまるで涙を誘う音楽の一節を聴くようでもあり、歌われることを願う悔恨や溜息のようでもある。彼らは精霊なのだ。かつては人間の姿で地上を徘徊し、おぞましい闇の行為をはたらいた者たちが、いま嘆きの聖歌や哀歌を歌いながら罪を償おうとしているのだ。

——ソロー 『ウォールデン』

ソローはフクロウの陰気にも聴こえる声を愛しました。なぜならそれは、人間の胸の内なる荒涼とした風景を歌うことで、私たちにいまだ広大な未開の自然が存在することを伝えようとしているからでした。そんな精霊の声を聴き取ることは、人間の内面に隠された深い真実に触れることであり、そこには美しさや悦びとともに、苛烈な業苦や悔恨も含まれています。「畏れ」という深い感情の世界へと、精霊たちの息づかいとダンスをつうじて入っていきましょう！ 閃きとともに、ご参加を心からお待ちしています。

野生の学舎 <ソローヴィアン> 2019 プログラム

第Ⅰ部

「ストリートの精霊たち」を語る

トーク 今福龍太（文化人類学者）＋ 川瀬慈（映像人類学者）

エチオピア、ゴンダールの町の街路に生きる貧しい楽師たちとの深い魂の交流を描いた『ストリートの精霊たち』（世界思想社、2018）の著者である川瀬慈と今福龍太が対話し、世界のなにげない片隅で、幸いも不幸も含み込んで響きあう無数の小さな声の豊かさについて語ります。楽師の子供たちを描いた映像作品『僕らの時代は』（川瀬慈、2005／2016）を上映予定。

第Ⅱ部

ドゥエンデ 舞踊劇「怖ろしい妖精たちの歌う子守唄」

脚本／演出 今福龍太 ダンス 高橋由佳 朗読劇 有志による

スペインの民俗世界で踊りや歌の靈感源となる変幻自在の精霊＝ドゥエンデ。能では「花」とも呼ばれるこの美の源泉にいる妖精を祖谷に呼びだし、バリ舞踊を学んだダンサー高橋由佳の即興の踊りとともに、精霊世界の崇高さと残酷さを描き出す今福龍太の新作詩劇を現地有志の参加を得て上演します。

食事と会場について

当日の宴では、アルコールを含む飲み物と、主に地場産の食材を使った料理をご用意いたします。

宴は未明まで続く見込みですので、会場（なこち）では翌朝までご自由にお過ごし頂いて構いません。

（ただし寝具等のご用意はありません。）

また、近隣の宿での宿泊をご希望の方は、お気軽にご相談ください。



前回（2018年）の様子

会場 なこち LIFE SHARE COTTAGE
徳島県三好市東祖谷落合252
※臨時駐車場あり（会場より徒歩約5分）。

参加費 3,000円（食事・飲み物代込）

参加方法 事前に下記の連絡先宛にご予約をお願いします。

**参加申込
お問合せ** なこち LIFE SHARE COTTAGE（稲盛）
Email info@nakochi.jp
TEL 090-9831-7522

イベントの詳細、会場アクセスについては
<http://nakochi.jp/thoreau202th.html>
をご覧ください。